

大学名 高知大学

第61号テーマ  
「レジリエント社会の構築に向けて」

表題 集落レベルから地球レベルまでの持続可能な開発に資する防災の推進

### 特色ある取組

本学防災推進センターでは、高知県内の集落単位での住民の救急医療の支援、中山間地の村落におけるSDGsの原則を意識した防災の支援などの県内の現場における取組から、南海トラフを震源とする大規模地震等の発生メカニズムや対策など、いわば日本全国レベルの取り組み、そして過去の気候変化から地球温暖化後の地球環境の予測を行う、全地球規模の取り組みまで、様々なスケールでの取り組みが行われています。それらの成果を広く国民に発信するために、令和2年12月12日(土)に、高知大学防災推進センターシンポジウム「防災とSDGsー持続可能な開発に資する防災とは」を、オンラインにより開催しました。パネルディスカッションでは、本学で実施されている防災に関する研究は、集落単位の地域課題から、地球規模のグローバル課題まで、異なる空間スケールで行われていることから、各研究者が自らの活動の空間及び時間スケールを意識しながら活動することの重要性が示されました。そしてまとめとして異なる空間・時間スケールの活動を、連携させる方向性で活動を行っていくことが呼びかけられました。

### 期待できる成果・評価 など

集落や村落レベルでの住民の活動に、地球規模レベルでの環境や防災の視点を持ち込むことにより、普遍性、統合性、包括性、参加性、透明性といったSDGsの原則を、彼らの活動に持ち込むことができ、集落や村落レベルのみならず、地球規模でも持続可能な開発を推進することが可能になると考えられます。大学はそのための支援を行います。



中山間地の町村での研修会

モンゴルの湖における湖底堆積物のコア採取  
←過去の気候を解明する



### 参考URL

・防災推進センターHP

<http://www.kochi-u.ac.jp/cdpp/index.html>